【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成22年5月13日(2010.5.13)

【公開番号】特開2009-86320(P2009-86320A)
【公開日】平成21年4月23日(2009.4.23)
【年通号数】公開・登録公報2009-016
【出願番号】特願2007-256322(P2007-256322)
【国際特許分類】
Ｇ０３Ｂ　5/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０３Ｂ　5/00　Ｊ

【手続補正書】
【提出日】平成22年3月25日(2010.3.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
撮影装置の中には、ユーザの手ブレ等による撮影画像の乱れを抑制するために防振機構が内蔵されているものがある。この防振機構には補正レンズあるいは撮像素子といった光学部品が光軸に対して直交する平面内で移動自在に配備され、その補正レンズあるいはその撮像素子が手ブレに応じて駆動されることにより手ブレの補正が行なわれる。特許文献１、２、４には上記光学部品のうちの補正レンズを動かす方の技術が開示され、特許文献３には上記光学部品のうちの撮像素子を動かす方の技術が開示されている。特許文献１から特許文献４では、補正レンズ又は撮像素子を含む平面内の直交する２つの軸、つまりＸ軸とＹ軸とに沿ってそれぞれ、ボイスコイルモータを備えたＸ駆動部とＹ駆動部を配備して各々の駆動部で補正レンズ又は撮像素子をＸ軸方向やＹ軸方向にそれぞれ俊敏に動かすことができるようにしている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００３】
ところで、最近のデジタルカメラにおいては、特許文献４に開示されているように、被写体に向かってＹ方向に延びる第１の光軸に沿って入射してきた被写体光をそのＹ方向に垂直なＺ方向に延びる第２の光軸に沿う方向に屈曲させて結像させる屈曲光学系を搭載することでボディの小型・薄型化を実現しているものが多い。
【特許文献１】特開平３－１８６８２５号公報
【特許文献２】特開２００６－２１５０９５号公報
【特許文献３】特開２００５－２４２３２５号公報
【特許文献４】特開２００６－２４３７０４号公報